

「御国が来ますように！！」

あなたはどちらの国に生きるのかⅡ マルコ5:1~20

■ 見方を変える

リンゴとスイカとバナナを積んだトラックがカーブを曲がる時に何かを落としました。何でしょうか？

→答え：スピードを落とす。リンゴとスイカとバナナなどが気になるのですが、カーブを曲がる前にはスピードを落とす事が大事です。このように、私たちは多くの情報の中から目線をズラされてしまい本当に大事なことに気づかないのです。

1. 見ている目線

私たちはその問題を見ないで別のものに目が向いてしまいます。人生の小さな出来事に目が向いて本当に見なければならぬものを見ないのです。

2. レッテルを貼らない

私たちは隣の人と比較することでレッテルを貼り他者と見比べてしまいます。

私たちがしっかりと整理して因果関係を調べることが大事です。原因がわかったらそれで諦めてしまうのではなく、どう対処するかを考えればいいのです。

■ 想像 VS 意志

◎なぜ、こうなったんだろう？（問題を考える）

◎なぜ、こうなるんだろう？（不足に目を向ける・惨めになり諦める）

※この二つは似ているが、結果は全く違う結果になります。

私たちは失敗すると隠します。そして考えずに誰かに指を差してしまいます。

しかし、クリスチャンはこれをやめなければいけません。私たちは失敗したときに「失敗しました。ごめんなさい。」と素直に神様の前に出るだけです。その時初めて問題があったことを認めることができ、神様が癒してくださるのです。これが神様と私たちの関係です。私たちは自分で治せません。だからイエス様があなたの弱さを背負って十字架にかかってくださったのです。

■ 惨めさ

「われわれの惨めなことを慰めてくれるただ一つのは、気を紛らすことである。しかしこれこそ、われわれの惨めさの最大のものである。なぜなら、われわれが自分自身について考えるのを妨げ、われわれを知らず知らずのうちに滅びに至らせるものは、まさにそれだからである。『パンセ断章 171』

「惨めさ」の目的は、滅びにいたらせる為に考えることを止めさせることです。

■ ゲラサ人の地～あなたの役割で生きる～

（マル5:1）『こうして彼らは湖の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。』
《ゲラサ人》という言葉には「追い出す投げ出す」という意味があります。それは（創世記3:24）『こうして神は人を追放し、いのちの木への道を守るために、ケルビムと、輪を描いて回る炎の剣をエデンの園の東に置かれた。』という御言葉に由来します。

また「ゲラサ」ですがマタイには「ガダラ」と表記されています。意味は神殿の修復という意味です（神様が修復する追放された人々）私たちが心の中にも、まるで追い散らされ、荒れ果てた廃墟のようなことがあります。イエスはその廃墟を立て直して下さるお方です。

■ マルコ5:2~5

《墓場》…人間のどん底に落ちていることを表しています。

《イエスを迎えた》…応戦する（歓迎ではない）

どん底に落ちていた人々は、イエスに応戦するように出迎えたのでした。そして3,4節は同じことが繰り返されていて強調されています。「鎖を持ってしてもつないでおくことができないう悪霊にとりつかれた人…。これはまさしく私たちの姿の象徴です。

イエス様を信じ礼拝も守る。イエス様と共にいたいと願う。

しかし、そのようにはいかない時があるのです。

まるで墓場のような状態である心があることを認めましょう。

そして「力では抑えられない。」私たちは「石で自分のからだを傷つけている」ような生活を送っているのです。（5:5）

私たちは自分を傷つけます。そうして最終的には自分が悪いんだ。自分などいる価値がないんだ。

自分がこうだからだめなんだ。とこのように自分を傷つけていくのです。

■ マルコ5:6~5

悪は神の前に勝つことができません。罪の中に導く感情があったとしても、私たちが礼拝に導く感情があるということこの箇所は表しています。

「いと高き神の子、イエスさま」（5:7）私たちが神の前に出ると、何が悪かったかを教えられます。悪い心は善を知っているからです。

悪い者ですら、神の名の權威に勝るものはないと知っています。だから私たちは祈れと言われています。自分の力ではできる訳がないが祈るからできるのです。天地万物も悪も私たちは制することができます。祈ることで必ず解決をもたらす奇跡を呼ぶのです。

彼らは追放され、自分の人生を投げ出す人が好きなのです。（5:9,10）場所にこだわったのは、この場所にいた人たちの罪の心がここにあったからです。

《豚は世俗・罪の象徴である》（マルコ5:11-13）

豚は世俗・罪の象徴です。イエスを目の前にしても、この世のものに目を向けてしまう私たちを意味しています。欲まみれになっている私たちの象徴です。

この世のもの、自分の欲を一番にして生きていると、自分の重みで沈んでいのちを失ってしまいます。

■ 異邦人伝道の始まり（マルコ5:14-16）

《人々は何事が起こったのかと見にやって来た》

これは礼拝の状態です。異邦人伝道の始まりを意味しています。

《正気に返ってすわっている》

ヤーシャヴ「住む、どどまる」：創世記4:16「エデンの東に住む」

失敗した人がもう一度やり直せるという意味もあります（「ガダラ人の地」→神殿の修復という意。）このように悪を制するときに宣教が起り始めます。クリスチャンが自分の感情を制し悪と向き合っていくとき、そこから宣教が起こるのです。

■ 私たちの回復（マルコ5:17-20）

イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人が、お供をしたいとイエスに願いました。しかし、イエス様はお許しにならないで、彼にこう言われました。「あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったか、知らせなさい。」そこで、彼は立ち去り、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、デカポリスの地方で言い広め始めました。人々はそれを聞いてみな驚いのでした。デカポリスは10の都市が集められた都市です。その大きな都市で福音が届けられたのです。イエス様がこの男のお供を許さなかったのは、男の能力が足りないとか、ふさわしくないとか、そのような事では無かったのです。イエス様が次に向かわれたのは十字架への道でした。つまり男のお供を意味するのは、十字架にお供するという意味だったのでした。イエス様は十字架をたった一人で背負うために、男にお供を許すことはしなかったのです。これが私たちに向けられた十字架の贖いなのです。

悪霊にとりつかれ、自分で自分を傷つけるしかなかった彼が神に仕えるものに変えられていきました。私たちが回復するという希望があるのです。悪に向き合い神に立ち返る時、奇跡が起きるのです。

■ さいごに

《イザヤ52:1・61:3-4,6》

イザヤ書52:1

目覚めよ、目覚めよ。力をまとえ、シオンよ。あなたの美しい衣をまとえ、聖なる都エルサレムよ。無割礼の汚れた者は、もう二度とあなたの中に入っては来ない。61:3 シオンの嘆き悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、嘆きの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるために。彼らは、義の樅の木、栄光を現す、【主】の植木と呼ばれる。61:4 彼らは昔の廃墟を建て直し、かつての荒れ跡を復興し、廃墟の町々、代々の荒れ跡を一新する61:6 しかし、あなたがたは【主】の祭司と呼ばれ、われわれの神に仕える者と言われる。

■ 祈り

神様、私たちが御国がきますようにと願うなら、自分の目線を捨て、やり方を変えることができるようにしてください。誰かが悪いのではなく、自分が未熟なことを受け取っていきます。

「私のやるべきことは何ですか？」自分の判断で行うのではなく、聖書からしてはならないことを知り神様に聴いていくことが出来ますように。そして、私の人生を通して、神様の栄光を見ることが出来ますように！

（要約者：泉水京子）

（2023年2月5日）